

# 発掘調査の今と未来

平安時代後期から室町時代にかけて菊池を拠点に活躍した「菊池一族」。さまざまな文献に残され、現在に伝わる一族の歴史的根拠を探るべく、市では現在、発掘調査を行っています。歴史的なまちなみが残る菊池市。調査の最新線とその成果を紹介します。

【問い合わせ先】生涯学習課 ☎0968(25)7232

## 想像以上の発掘成果 目指すは国指定史跡

南北朝時代、一貫して南朝に忠誠を尽くし、九州を征した菊池一族。遺跡の多くは私たちが暮らす地面の下にあり調査は進んでいません。深川地区にある菊之城跡も初代則隆が館を構えたといわれていますが、実態は解明されていませんでした。

「市でも菊之城跡の調査の重要性を感じていました」と話すのは、当時、市生涯学習課で文化財調査を担当していた坂本憲昭課長補佐。平成24年1月に地元区長会から提出された菊之城（館）跡地の試掘・調査実施の要望もあり、3月に確認調査を行いました。すると建物の柱跡や13世紀代の土師器の坏、小皿などが大量に出土。「想像以上の成果でしたね」と坂本補佐は笑顔を見せます。菊之城跡の遺跡だけでなく、一族の遺跡を包括して広域的な活用に取り



旭志公民館 坂本憲昭課長補佐  
平成26年度まで生涯学習課で文化財調査を担当

り組むよう県からの提案もあり、平成24年10月には市として国指定史跡を目指す方針を固めました。

## 市史跡調査検討委員会発足と 新たな発掘成果

測量や文献調査、発掘調査を進め、平成26年11月には地元住民説明会を開催。平成27年3月には文化庁や県大学教授、地元住民で構成された菊池市史跡調査検討委員会を発足。守山城跡や赤星舟着場推定地、隈府院馬場遺跡などの調査を進めました。しかし、井戸跡や出土した土師器などの確認にとどまり、大きな成果は

得られませんでしたが。そんな中、令和元年12月に深川地区で菊池川流域最古の舟着場跡とみられる石組が出土（菊之池B遺跡）。中国から輸入したと考えられる陶磁器も出土したことから、菊之城付近が海外交易の拠点として機能していたことが推定されました。令和2年度の発掘調査では菊池川の当時の流れが現在よりも北側を流れていたことも裏付けられました。12月には菊之城跡から一族の館跡とみられる遺構も検出。これらの成果を基に令和3年3月に第8回菊池市史跡調査検討委員会を開催しました。

族が菊之城を拠点として菊池川の水運を重視した経済活動を行っていたと推定できるものでした。検討委員会で菊之城跡に近い北宮阿蘇神社と付近の字名にも注目。「上市場、下市場という字から、交易がこの辺で盛んに行われていたのではないかと稲葉継陽熊本大学教授は話します。検討委員会委員で深川区長の櫛川博久さんは「一族ゆかりの地がどういうものだったのか、把握が進むといいですね」と今後の調査に期待を寄せます。

検討委員会では菊之城跡を中心とした前期菊池一族の活動拠点をまずは国指定史跡にする方針を固め、文化庁からも解が得られました。今後はこれまでの調査をまとめ、申請に向けて不足する調査を継続していきます。

## 専門家に聞く インタビュー



### 文化財から新しい世界が見える

熊本大学(考古学) 甲元眞之名誉教授

菊池一族は鎌倉時代から室町時代まで幅広く歴史を追える格好の対象。丁寧に発掘すれば貴重な文化財は出てきます。調査には地元の皆さんの協力が不可欠。一緒に一族の歴史を明らかにしましょう。



### 事実に基づいた成果を共有

熊本大学(日本中世・近世史) 稲葉継陽教授

市の菊池文化研究所では毎年、一族に関する論文を募集しており、研究の発表や発見につながる良い取り組みです。こういう研究成果や発掘調査などを住民と広く共有し、理解を深めてほしいですね。



1\_菊之城跡では建物の柱跡とみられる遺構が確認でき、館跡の裏付けが進む 2\_令和2年度に確認した遺跡の一部。水が溜まる掘り込みの石組 3\_菊之城跡の4号土坑(写真1を参照)から、大小2種類の土師器がまとまって出土した 4\_令和2年2月に行った菊之池B遺跡の現場説明会では大勢の人が見学に訪れた



## これまでの経緯

- 昭和41年 菊之城跡を「菊池十八名城」の一つとして市指定史跡に指定
- 平成24年1月 菊之城(館)跡地の試掘調査実施についての要望書が提出される
- 3月 菊之城跡確認調査実施
- 10月 菊池一族関連遺跡群を国指定史跡へ目指す方針を固める
- 平成26年11月 地元住民説明会開催
- 平成27年3月 第1回菊池市史跡調査検討委員会開催(以降、毎年開催)
- 令和元年12月 深川地区で菊池川流域最古の舟着場跡とみられる石組が出土(菊之池B遺跡)
- 令和2年2月 菊之池B遺跡の現地説明会開催
- 12月 菊之城跡で一族の館跡とみられる柱跡が出土
- 令和3年3月 第8回菊池市史跡調査検討委員会開催。「菊之城跡を中心とした前期菊池一族の活動拠点」をまずは国指定史跡へ目指す方針を固める

10代 武房が使ったかもしれない器です

生涯学習課歴史教育専門員 西住欣一郎さん



## 歴史を生かしたまちづくりへ

「歴史は人々の営みの積み重ね。一族の取り組みの上に菊池のまちづくりが継承されています」と話すのは市生涯学習課の西住欣一郎歴史教育専門員。「歴史的価値を知り、郷土に愛着を持ってもらえたら。教育現場でも取り組みを紹介してもらえると嬉しいです」。検討委員会のアドバイザーである文化庁の近江俊秀主任文化財調査官も「市民に愛され大切にされるような歴史を生かしたまちづくりが進むといいですね。市民一体となって史跡活用に取り組んでほしいです」と声を弾ませました。市教育委員会では引き続き国指定史跡に向けた調査を進めます。ご協力をよろしく願います。

## 企画展 菊池一族の黎明

近年の菊之城跡とその周辺の発掘調査成果をパネルで展示解説します。どのようにして菊池を形成してきたのか、発掘調査から紐解いていきます。

期間 4月1日(木)~7月31日(土)  
会場 わいふ一番館  
料金 一般220円、小中学生110円